

ご先祖様への感謝

こんにちは、斎藤友蔵と申します。

本日はご先祖様への感謝について、お話をさせていただきます。

お盆やお彼岸には、ご先祖様への墓参りや供養を行います。行事ごとのときだけではなく、平素もそのような心持ちが大切ですね。

この命の根源を仏さまと呼んでいます。私たちの日暮しは、宇宙の大きな生命からみると、ほんのささやかな営みに過ぎません。今、こうして生き、生かされている自分の生命を思うと、どんなに尊いことでしょう。

私どもは、普段は家庭や学校、社会という「横のつながり」を中心に生活しています。ご先祖様を供養したり、手を合わせることで、「縦に結ばれた」いのちのつながりに気づき、いのちを頂いたことへの感謝の気持ちをもつことは、あなたの心を清浄にしてくれます。

ご先祖様と関わりのある仏教用語をいくつかみてみましょう。

「お蔭様」

最近、あなたはお蔭様という言葉を使ったことがありますか？

今はインターネットで、誰とも会話することなく、なんでも買うことができます。しかし、毎日食べている野菜や肉、魚は天から降ってきたわけではありません。それらを作り加工し、運んで、売ってくれる大勢の人達の力が結集して、私たちの元に届いています。さらに言えば、自然の恵みがあるからこそ、私たち人間はそれらの食材を得ることができます。

食べ物だけではありません。身の回りにあるものすべて、多くの存在の「お蔭様」で成り立っています。

そもそも、私たちが日々無事に暮らせていること自体、たくさんの存在に護られています。そのご加護に気づき、「お蔭様」と感謝を捧げてきた先人の姿勢を、私たちも忘れてはいけません。

本来「お蔭様」とは、陰にいて護ってくれる存在のこと。つまり、私たちのご先祖様を指す言葉でした。神仏はもちろん、ご先祖様をはじめとする多くの「お蔭様」がいて、私たちがいる。日常の「当たり前」の背後には、たくさんの「お蔭様」があるのです。

「お蔭様で、元気です」と言う言葉は、「多くの存在に護られているから、今、元気でい

られます」という意味なのです。あなたもぜひ使ってみてください。

「他生の縁」

「袖振り合うも他生の縁」という諺を聞いたことはありますか？

「道のいきすがりに袖が振れ合うというような、偶然でほんのささやかな出会いであっても、ご縁があったのですね」と、そういう意味なのですが、「たしょう」の部分の漢字を「多い少ないの多少」だと勘違いしている人が多いです。

正しくは「ほか」の「せい、人生のせい」とかいて他生」です。

「今まで別の人生でも会っているのだから」と言っているわけですね。

そしてもうひとつ大事な意味があります。「他生」とは、実はご先祖様のことなのです。会ったこともないご先祖様のさまざまな縁を頂いて、今、自分が存在している。その縁に生かして頂いていることを知って、感謝の気持ちをもつ。その大切さを、この言葉は教えています。

それを鑑みまして、「袖振り合うも他生の縁」をもう一度説明しますと

「道のいきすがりに袖が振れ合うというような、偶然でほんのささやかな出会いであっても、それは前世や、ご先祖様からの深い縁で起こるもの。ちょっとした物事や人との出会いも大切にしましょう」となります。

ご先祖様への感謝の気持ちを表した、とても素敵な言葉だと思います。

お盆やお彼岸だけでなく、平素から、ご先祖様との無言のかたらいを、ぜひなさってみてください。